

## 座談会

## はじめの一步 SOLS 座談会 第3回

開催日時 2024 年 11 月 28 日 (火)

SOLS 参加メンバー

司会：山田 茉奈 (順天堂大学 3 年、2 回目)

山口 真央 (藤田医科大学 1 年、2 回目)

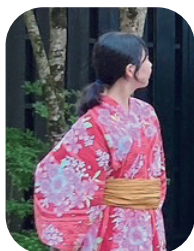
東山 七海 (大阪大学大学院 1 年、1 回目)

一瀬 夏菜 (埼玉県立大学 4 年、1 回目)

中山 章文 (岐阜医療科学大学)

アシスタント：八木喜久子 (㈱宇宙堂八木書店)

### はじめに



山田：順天堂大学 3 年の山田 茉奈と申します。よろしくお願いします。まずは真央さんから自己紹介をお願いします。



山口：藤田医科大学 1 年の山口 真央です。よろしくお願いします。



東山：大阪大学大学院修士 1 年の東山 七海です。よろしくお願いします。



一瀬：埼玉県立大学 4 年の一瀬 夏菜です。よろしくお願いします。

中山：岐阜医療科学大学の中山と申します。最年長です。教員ですが、私はぼーっと聞いてて、何かこれはどうですかって質問されたら答えるというような立ち位置でおりますので、気楽にしゃべってください。

八木：宇宙堂八木書店の八木と申します。まず、今回の座談会、皆さんの若いエネルギーをよろしくお願いします。

### テーマ①

#### 検査学生のこだわりと 1 日・ルーティンで行っていること

山田：今回は検査学生の 1 日とこだわりをテーマにしまして、その中でいくつか話しやすいトークテーマを 6 つほど用意しています。全部話せるかどうかわからないんですけども、一通り出たものは皆さんに答えてもらえるような形にはしたいと思います。トークテーマがたくさんあって、学年も様々なので、できたら皆さんに答えていただけたらと思っています。まず真央さんにお聞きしたいと思います。学生生活の中でルーティンで行っていることがあったら教えてください。

山口：はい、ルーティンで行っていることは、私はスケジュール帳は紙派なんですけど、紙にやらないきゃいけない小テストとか締め切りとかを全部書くようにしてます。小テストだけじゃなくて、誰かに何かを送信しなきゃいけないとかいう、

ちっちゃいやつも書かないと忘れちゃうので、全部書くようにしてるっていうところが、ルーティンで行っていることかなって思います。

山田：いいですね。忘れ物はやっぱり書くことで忘れたりっていうことは減りますか？

山口：減りました。最初大学入って、一回小テストやり忘れてて、それをやり忘れてから、これ書かないと絶対忘れると思って書くようにしました。

山田：ちょっと私だけだと心もとないので、七海さん、夏菜さんも、質問があったら途中でツツコミを入れる感じでいただけたら嬉しいです。まずは1順目なので、とりあえず皆さんに聞いていきますね。夏菜さん、ルーティンで行っていることがあれば教えてください。

一瀬：私のルーティンは、学校に行くときと帰るときに、駅から学校が2kmくらい離れているのですが、往復5kmを歩いています。研究であったり勉強ばかりしていて、全然運動してないので、さすがに歩かないといけないと思って健康維持のために歩いています。

山田：5kmって結構ありますよね。どのくらい時間かかりますか？

一瀬：片道だいたい30分くらいですね。

山田：健康にいいですね。ありがとうございます。続いて、七海さん。

東山：さっき通学の話が出たので、私も通学に関してお話しすると、今独り暮らしで、学校まで大体1.6キロぐらいの道のりを自転車で通っています。確かに研究室に長時間いると運動不足になりがちなので、通学がいい気分転換になると、一瀬さんの話を聞いていて思いました。あとは、授業の前に、前の授業の復習とかをやっていました。

山田：ありがとうございます。通学の話があったので、私も通学の話つながりでお話ししたいんですけど、私も自転車で学校に行ってて、片道30分くらいかけて行ってます。自転車通学を始めたのが今年からで、それまではバスと徒歩通学だったので、自転車通学を始めてから明らかに体力のなさに気づいて、これはまずいと思って、ギアがついてる自転車なので、あえて負荷をかけて学校に行って、ジムの自転車マシーンみたいなもの代

わりになればいいなと思ってやっています。勉強面でいうと、平日は学校が20時で閉まるので、授業が終わった後は20時まで自習室に残って勉強するのを心がけてやるようにしています。家に帰ってしまうと、スマホいじったり、YouTube見たりが日常茶飯事なので、そんな自分が嫌だって何度思ったか分からないんですけど、それでも何回も繰り返すので、強制的に学校に残って勉強するようにしたら、自己肯定感も上がっていいことづくめかなと思っています。

皆さんにルーティンで行っていることをお聞きしましたが、この流れで残り5個も聞いていけたらいいかなと思っています。では、今の中で何かお互いに質問はありますか？

一瀬：真央さんに質問なんですけど、スケジュール帳って何使ってますか？私も紙派なのですが、結構こだわりあって。真央さんもこだわりあるかなと思って。

山口：今は無印の自分で日付書くウィークリーの手帳を使っています。可愛いキャラクターとかの可愛い手帳とかあると思うんですけど、それを買っちゃうと私全然続かなくて、中身がシンプルなものが私は続いたので、それを使っています。

一瀬：自分で書けるのいいですね。好きな時に始めて、好きな時にやめられるっていうか。私はほぼ日手帳を使っています。カバーをお気に入りのやつを買って、長い間使い回しています。中身だけ変えて。

山田：モチベーションもあがりますしね。さて、あと何かありますか？

八木：皆さん、スケジュール手帳に予定を書き込む時って、ボールペン派ですか？シャーペン派ですか？

一瀬：ボールペンです。

山田：私もボールペンです。

八木：黒一色？

東山：私は決まっている予定はボールペンで、暫定というか、まだ決定していないけど一応予定を空けるとかはシャーペンで書いて、決まったら消してボールペンで書いています。あと色分けに関しては予定の種類によって変えています。例えば

バイトとか課外活動であったりとか、学校の予定であったりとか、大事な予定、テストとか、絶対守らなきゃいけない締め切りとかは赤字で書いています。

八木：中山先生は若い頃いかがでした？

中山：私は今でもメモを取らないんです。お話を聞いていて、皆さんすごいなと思っています。ちゃんとメモを取ったり、スケジュールを書き込んでるっていうのがね。今でも僕はiPhoneのGoogleカレンダーに入れてる方なんで、携帯がなくなると非常に困ることが起こってしまうというか、何でもそこに入れてます。ただ一つ便利なのは、教員やってて今12年目なんですけれど、大体年間の行事って繰り返しますよね。そうすると去年どうやったのかなっていうのを、カレンダーを見たら大体そこに内容が入ってるっていうふうな使い方はできるので、いいですよっていう言い訳ですけどね。

東山：私も携帯だと過去の予定をすぐに確認するのが便利であると最近思いました。

中山：でも書くっていうことは絶対いいと思いますよ。何かの本で読んだんですけど、しかも鉛筆で書くっていうのが一番いいっていうふうに言ってた書物がありました。確かに頭の中をしっかりと情報が通っていくので、それは非常に習慣だと思えます。ぜひ続けてください。

山田：ありがとうございます。スケジュールでこんなに話が盛り上がるとは思いませんでした。続いている話題に行きたいと思います。

## テーマ②

### 勉強の息抜きでやっていること

山田：続いて、勉強の息抜きでやっていることは何ですか？

一瀬：勉強の息抜きは2つあって、1つはしっかり寝ることです。私、ポモドーロ方式っていうので勉強してて、25分勉強して5分休憩っていうのをずっと繰り返すっていう方式なんですけど、飽き性なので何時間も集中してられないんですよ。なので、25分やって5分寝て、25分やって

5分寝てっていうのを繰り返してます。あとは最近卒研というか、大学院に入学した後に続く研究みたいなのをしていて、それも勉強の間に入ってくるので、それも息抜きになってます。

山田：すごく高度な息抜きでしたね、2つ目。

1個目の息抜きは共感できるって思いました。ポモドーロ法って私もやったことあるんですけど、5分休憩でだいたいだらけて、2時間とか経ってた経験があるのですが、なったりしないですか？

一瀬：なってしまうときもあるけど、なるべく切り替えています。あと周りに人がいる場所で勉強するようにしているので、セルフ監視されてるモードみたいになって、それで続けられます。

山田：なるほど、確かに見られてるのはいいって言いますよね。一人暮らしだと特に自由自在ですもんね。これについては何かありますか？真央さん、七海さん？

東山：ちゃんと5分休憩して次に戻るっていうのがすごいです。

山田：見習いたいです。では七海さん、続いて息抜きでやっていることを教えてください。

東山：手軽にできる方法は、息抜きに音楽を聴くとかですかね。私は小さい頃からピアノをやっていて、その影響で音楽が好きなので、音楽を聴いたりとか、あとは土日、結構家にいる時間が長い時は、夕方ちょっと走ったりとかしています。ランニングすると、外の空気を感じることでリフレッシュすることができて、また勉強に集中できるので、息抜きでよくやっています。あとは、土日の朝にちょっとカフェラテを飲みながら勉強すると、勉強が捗ります。

山田：ありがとうございます。全部種類の違う息抜きで。

東山：そうですね。学校でできる息抜きと、土日時間あるときにやる息抜きを、時間や場所にに応じて使い分けています。

山田：ちゃんとオシャレな。

東山：一人暮らしだからこそ自由にできる部分もあると思ってますけどね。

山田：高められるのが一番いいですもんね。自分のやる気。ありがとうございます。では、真央さ

ん、続いてお願いします。

山口：私は息抜きっていうか気分転換で、カフェで勉強することが多いです。あとは、結果的に息抜きになっているのは、アルバイトが息抜きになっているかなっていう感じです。

山田：何のバイトされてるんですか？

山口：2つやっていて、飲食と塾のバイトをしています。

山田：へー、すごい。塾だと人に教えたりって感じですか？

山口：教えたり採点したりします。

山田：すごい。頭使ってそれがリフレッシュになるとは、尊敬です。

東山：飲食って大変なイメージがあるんですけど、そうでもないですか？

山口：大変です。

東山：私、1年生の時に回転寿司のチェーンで働いて、土日とか平日の夜すごい忙しくて、バイト行ったらクタクタになっていました。両立しててすごいなあと思います。

山口：結構最近是人手不足で、長い時間シフトが入っていて、追い込まれないとやらないタイプなので、いい感じに追い込まれている感じなのかなと。

東山：勉強から離れるとまたモチベーション上がりますよね。

山田：ありがとうございます。私の勉強の息抜きは、もう大体皆さんと似た感じなんですけど、私も今日はやるぞって決めた日は、朝起きて、カフェ、BGMみたいなのを検索して朝から流して、紅茶とかを飲みながら優雅に勉強を始めるっていうのが、たまーにの息抜きの日です。できてる日はすごい少ないんですけど、それが好きでやろうって決めてる日は、わざと息抜きを作る感じでやります。それから、運動は普段全くしないのですが、家の外には出たくないので、家の中でできるダンスなどで体を動かして、汗かいて、また勉強に戻るっていうのが一連の流れで、今日やったっていう達成感があって好きです。

八木：皆さん、これから勉強やる気になるぞっていう一押しの音楽とかありますか？こんなバンド

が好きだとか、この曲流れたら絶対やる気になるとか。

山田：結構アップテンポの曲の方がやる気になるかなって思うので、流れてきて元気になる、やってやるぞっていう気持ちになるのは、wanimaさんの「ともに」という曲は、勉強にスイッチ入ります。

東山：今度聴いてみます。私は YOASOBI が好きで、「舞台に立って」という、パリオリンピックのテーマソングなんですけど、それを聴くとやる気が出るので勉強する前などに聴いています。

八木：うーん。YOASOBI。いかがですか？夏菜さん。

一瀬：私はまだ選びきれてないんですけど、Mrs. GREEN APPLE が好きです。

山口：私は back number が好きで、よく聞いています。

八木：先生いかがですか？先生の青春時代のBGMを。

中山：青春時代ですか。下宿だったんですけど、ラジオですね。僕らの頃もフォークソングが流行ってたので、昭和のフォークソングですけども、そういうのが流れているのを聴きながら勉強もしてましたね。一応ちゃんとしてたと思います。

八木：おすすめの番組とかはあったんですか？

中山：オールナイトニッポンなんていうのが聞いたこともあるかなっていうのがだいたいそうですね。田舎の大学だったので、あんまり騒いでもそんなに文句を言われない立地のところにいたので、それこそ、歌を聴くじゃなくて、自分たちギターを聴いて歌を歌ってるとかね、休憩はそんな感じでした。

## テーマ③

### 勉強する上で工夫していること

山田：では、同じく勉強つながりで、今度は勉強する上で工夫していることについてです。

山口：私の大学はレジュメが全部アプリで配られるので、覚えることは、紙に一回印刷して覚えるようにしてます。紙の方がやっぱり好きなので、



印刷をして、青ペンで隠したりとか、オレンジペンで書いたりして、暗記するようにしています。あと暗記ものの時は、音や曲を流さないようにすること。もう今日は無理っていう日は聞きながらやる時もあるんですけど、聞いているとこっちに頭が行っちゃう気がするんで、できるだけ切るようにしてます。

山田：アプリで配られるって初めて聞いたんですけど、みんなパソコンとか iPad を持ってるってことですかね？

山口：そうですね、Surface なんですけど、その Surface のこれを買ってくださいっていう風に入學のときに言われて、このアプリとこのアプリ入れてみたいなのも全部指定で、そこに先生がアップロードして、私たちが使うっていう感じです。

山田：そうなんですね。真央さんみたいに紙で勉強したいって方は結構いるんですか、周りにも。

山口：めっちゃ多いです。結局みんな印刷するんです。学校にコピー機があるんですけど、テスト前はたくさん並んでます。

中山：前回の座談会でもその話が出て、その時の皆さんに質問させてもらったんですけど、勉強するときにタブレット派なのか印刷派なのかっていう。今日の皆さんはどうなんですかね。山口さんは紙派ってことなんですけど、皆さんいかがですか。

山田：私も紙派です。

一瀬：私はタブレットに書き込んでから最後に印刷してます。

中山：やっぱりそうなんですね。情報を頭に入れようっていうとき、整理するときにはよくタブレットとかパソコン使われるみたいなんですけれど。情報を頭の中に記憶しようっていうときは、どちらかというと、紙媒体っていう方がやりやすいっていう感じですかね。やっぱりそうなんですね。ニュートンっていう雑誌ありますよね。あそこにスマホ脳っていうのがあって、うちの受験生が見つけてきたんですけど、タブレットとかああいいうもので見ているときに、やっぱり頭は記憶するモードになってなくて、だから多くのデータを処理するのには、ああいいうタブレットはすごく向い

てるんですけど、逆に記憶するのには向いてなくて、紙に書かれたものを見ているときの方が、やはり頭の方は記憶モードになっているっていうのがあったので、やっぱりそうなんだっていう風にちょっと思って、ありがとうございます。タブレットはね、山口さんのところと一緒に、いつもアプリで PDF をアップロードしてそれをダウンロードしなさい、みたいなことをよくやってるんですけど、そうすると、タブレットだけで勉強してる子はなかなか捗らないですね、实际的に。結構いろんなグループで話を聞いてみると、紙派の人の方が、端的に言う成績がいい感じですね。どうしてもやっぱり、入ったつもりでは入ってないっていうような印象を受けてますので、うちの学生にどういうふうに指導してるかなっていうのを、皆さんから聞いたのを参考にさせてもらっていいのかなと。タブレットも便利なので、使っていく方向ではいいと思うんですけど、使い方がなかなと思っているので。ありがとうございます。山田：ありがとうございます。では、夏菜さん、勉強する上で工夫していることがあれば教えてください。

一瀬：はい、人がいる場所で勉強するという事です。やっぱりみんなも一緒なんだなと思ったのですが、一人でやるとどうしてもサボってしまうので、誰かがいる場所で見られてるなって思いながら勉強するのが一番捗るかなと思っています。

山田：そうですね。やっぱりちょっとずつ違えど、みんな方向性は似てるっていうのが面白いですよ。勉強のやり方にしろ、息抜きにしろ、そんなに変わった息抜きだとかっていうのはないんだなってみんな似てくるんだなと思いますね。

中山：私の息抜きは多分ちょっとだいぶ変わってると思いますよ。微生物の教員なんですけれど、息抜きに実習のための菌を培地に塗るというね。考えずにとにかく体を動かすという。あれ結構ストレス発散になるし、息抜きになるんですね。

一瀬：すごくわかります。私も微生物の卒研なので、菌を培地に塗ったり、菌液に溶いたり、振盪培養器の揺れる速さを調節しながらうまくいくかなと考えたり、作業するのが楽しいというか、息

抜きになってます。

中山：こういうところが分かってもらえる。

山田：かっこいいですね。すごく専門性の高い息抜きで。

中山：今日ね、ちょうど実習の最終日なんですけど、僕毎回実習のときにグラム染色と分離培養、平板への分離培養をさせるんです。最終日、今日は分離培養の出来によって「大変よくできました」、「よくできました」、「頑張りました」の3段階に評価するんですけど、一番最後の日は試験なんです。「大変よくできました」だったら2点加えますからって言って、「よくできました」は1点加えて、「頑張りました」は加えないんですけど、みんな頑張るんですよ。今日結果の公表で「ちゃんと分けておいてありますから観察してください」って言って、みんなドキドキしながら入ってきましたね。そういうことをやると面白いなと思って。

山田：学校の話が聞けて面白いですね。こういうお話聞く機会なかなかないので。

中山：うちの学校、臨地実習に行った時に、分離培養に関しては評価がいいんです。分離培養って結構させてくれるんですよ、臨地実習に行った時に。分離できてなかったらもう1日かかっちゃうじゃないですか。なので1回でできるっていうのは、現場の先生方にも非常に重宝されるんですね。ここだけのお話ですなど。

山田：知らなかったです。聞けてよかった。実習前にぜひ知りたかったなと。

中山：後輩に教えてあげてください。

山田：はい、伝えておきます。

八木：中山先生に。私も素人なんですけど、実際の分離培養に関しては、本来、培養しようと思ってた菌じゃないものが、いざ蓋を開けたら見つかってしまったなんてこともあるんですか？

中山：どういうふうにとるかな？こないだありましたね。こないだ保存してて、実習用にリステリア菌を培養したはずなのに、なぜかそこにバキュルスが生えてたっていう。これは多分、塗るときにコンタミしてしまったんだと思うんですけど、そのバキュルスがどこから来たのか、大体よくわ

かってるんです。っていうのは、納豆の菌を使っただけ菌アートをしてたので、多分居ついてたなと思って、あいつはガフォーになっちゃうので。パラにこもって、他の菌よりも乾いてても生存してしまうので、やっちゃったなって思いましたけれど。実際の臨床検査の中では、材料から想定される菌以外のものが出てくるケースはあまりないかな。だいたい想像ができている範囲内のものですね。ただ、本来はここには菌はいないはずなのについていう時にあれっていうのはありますけどね。

八木：そういうときに目が点になっちゃうんですか？それとも、やった！

中山：それやったですね。これもしかしてちょっと論文になるんじゃない？みたいな。私が一等賞になるんじゃないっていうのはありますね。宝を見つけたような感じです。

八木：皆さんは実習中に何かそういうことってあります？想定外の何かが起こった。

東山：想定外で一つ思い出したのが、理学療法部に病院実習で行ったときに、検査学生が実習で介助するはずが、逆に実習生が怪我して理学療法士に介助されるということがありました。

八木：笑えないですけど、周りはたくさん慌てていましたね。

東山：そうですね。実習先の先生は慌てていました。そういうトラブルはありましたね。

一瀬：介護つながりでいくと、臨地実習の時に感染性廃棄物を集積場みたいな場所に持っていくのが実習生の仕事だったのですが、それを持ち上げた時にぎっくり腰になってしまいました。

東山：夏菜さんご自身がぎっくり腰になったんですか？

一瀬：はい。時が止まりました。

八木：重いですか？

一瀬：重かったです。検体を捨てた後で多くの採血管が入っていた状態なので。腰が痛くなりました。

山田：大丈夫でした？その後の実習。

一瀬：耐えました。後輩への引き継ぎとかでは本当にぎっくり腰に注意してねと伝えていきます。

山田：私は今実習中で、病理の薄切をするときに使う、すごく切れやすいミクロトームっていう器具があるんですけど、他の病院に実習に行っている子たちが何人もそれで手を切っているみたいで、それこそ介護つながりなのかもしれないんですけど、絶対切るなよって言われているのに切って、っていうのが何件も連発して続いているみたいで、それはあっちゃいけないトラブルかなと思いましたね。

中山：私も1年だけ病理をしていたことがあって、多分その刃物のミクロトームの刃の切れ味っていうのをどうやって表現しようかと思うんですけど、刃物って普通押して引いて切りますよね。でもミクロトームの刃は置いただけで切れます。紙剃りぐらいの薄さなんです。だから重さもほとんど軽いんですけど、指に置いたらそれで切れます。表現としたら、刃物が皮膚にしんついてくるような感じです。それほど切れます。だからすごい恐ろしい。

八木：その時の処置っていうのはどういうことをするんですか？血が出ちゃった、でもただ単に薬塗るだけじゃないからとか。

中山：多分傷の深さにもよると思う。すぐに診療科に連れてくってというのが一番だと思うんですけども、応急的にはその歯が何か検査に使った後であれば、すぐに消毒を含めて診療科にかけなアカンし、真っさらやったら、まだ止血をするっていうことを優先させていいんじゃないかなっていうふうに思いますね。多分そうなるのかなって。ただ、深かったらそれはもうね、外科に連れていけないといけなないので、切れた場所ですよ、手首なんかであればえらいことになりますから、指先ならまだいいんですけど、そういうケースバイケースだとは思いますが。でもあの歯は本当にびっくりするぐらい切れるというより、歯が吸い付いてくる感じです。そういうイメージで思ってもらったらいけないかなっていう感じがですね。よく切れる歯物っていうレベルじゃもうない感じです。

八木：手袋とかはしないのですか？

中山：もちろんします。もちろんしていてもすっ

と切れてしまいます。だからこそ0.何ミリという薄い切片が作れるんだと思うんですけど。

山田：ではちょっと話が飛躍しましたが、七海さんお願いします。

東山：勉強する上で工夫していることでしたっけ？はい。私は3つあります。そのうち2つが暗記物の勉強法で、1つは寝る前にやることと、あとは電車などで移動する時間にやることで、環境を変えることです。あとは国家試験対策でやったことなんですけど、間違えた問題をノートに書き出して、その問題と答えだけでなく、それに関連することで覚えてなかった部分も一緒にまとめて、間違えた問題だけを復習できる自分専用のノートを作っていました。これは大学受験の前からやっていて、私が受験生だった当時はセンター試験最後の年だったのですが、高3の夏に受けたセンター模試の物理の得点が30点で、塾の先生に啞然とされました。しかし、本番ではこの勉強法がよかったのか満点を取ることができたので、国家試験対策も同じ勉強法を使いました。あとは、夏菜さんも仰っていたように、模試など集中して問題を解きたいときは、図書館で集中してやっていました。

山田：勉強になる話がたくさんありました。これから国試受験に向けての勉強が始まるので、参考にさせていただきたいと思います。私が勉強する上で工夫してることは、勉強の媒体を一つにまとめるっていうことです。学校で配布されるレジュメは、科目によって紙でしか配布しない先生だったり、オンライン上でしか配信しない先生だったり、結構様々なんですけど、バラバラすぎて、科目によって手に紙媒体があるものないものっていうのが分かれてきちゃって、テスト勉強の時に結構困るなっていうのがあって、コピーはしないんですけど、iPadならiPadにまとめる科目があったりとか、紙で配られてる科目はもう紙でしかやらない。散らばっていると何から手をつけたらいいのかっていうのが分からなくなっちゃって、結局頭何も入らないということが結構あったりしたので、一つにまとめるっていうのはこだわりとしてやっています。それで、頭の整理がされるようになっ

たかなと思っているので、続けていこうかなって思っています。皆さんのお話聞いて大変参考になったので、取り入れていこうと思います。ありがとうございます。

## テーマ④ 通学時間の有効活用の仕方について

山田：ちょっと工夫と重複しているところはあるかもしれないんですけど、通学時間の有効活用の仕方について。真央さんからお願いします。

山口：私は通学は、家から最寄りまでは自転車で、電車でちょっと乗って、大学の最寄りから大学まではスクールバスで通っていて、スクールバスの時間が30分あって、その30分は小テストの勉強をしたりとか、あとはそれこそSOLSの議事録とかちょっと書いたりとかしてます。でも朝は眠くなっちゃうので寝ちゃうこともあります。

山田：通学バスってというのがあるのにまづびっくりしてるんですけど、藤田医科大学って学生の人数多いんですか？

山口：総合大学とかよりは多分少ないんですけど、一学年、600何人とかこの前言ってたりします。

山田：すごいですね。そうなるとスクールバスっていうものが出るのか。あと、勉強だけじゃなくてSOLSの話が出てきたのを、さすが真央さんだと思って思ったんですけど、そういうところで返信をしてるんだと思うと、私もやらなきゃって思いました。もう抜かりない有効活用の仕方ですね。ありがとうございます。じゃあ続いては、夏菜さんお願いします。

一瀬：私は通学だけで片道2時間ちょっとかかってしまうので、それを勉強に当てています。スマホで国試の問題を解けるので、それを解いたりしています。私はLINEの返信を貯めがちなので、移動時間に返信したりもしています。

山田：LINEの返信、結構私も共感できました。あるあるですね。通学途中ではないんですけど、貯めがちなのは分かります。電車通の方は確かに難しいですね。でも、座れなかったりとかあると思うんですけど、そういう時との、座れた時と

立っている時との、差みたいなのがあるんですか？

一瀬：座れたら寝てしまうかもしれないです。半々ぐらいで、睡魔に勝てなくて、気が付いたら気絶しているみたいなこともあります。

山田：なるほど。確かに座ったらそうですね、疲れてるし、眠くなりますよね。今、夏菜さんが座って教科書を広げている絵を想像してたんですけど、でもすごいですね、しっかり電車の中でも勉強しようって思えるのがやっぱさすがだなと思います。

一瀬：いやもう焦りですよ、焦り。国試まであと90日、91日しかなくて、本格的に焦ってきました。

山田：もうそんなに近づいてきたんですね、頑張ってください！

一瀬：ありがとうございます。

山田：続いて、七海さん、お願いします。

東山：私は基本的に自転車で通学しているのですが、紅葉が綺麗で少し暖かかった時期は、いつもより早めに起きて、散歩がてら歩いて大学に行っていました。それも普段の通学時間の有効活用といえるのではないのでしょうか。あとはバスでアルバイトに通っていたので、バスの車内で次の日の小テストの勉強をすると集中できました。

山田：そうなんですね。確かに短期間で一気に覚えたものって意外に記憶に残ったりとかしますよね。

東山：私は勉強するのが直前になってしまったというのもあるのですが、やはり環境を変えることで家で勉強するより集中できる気がして、バスや電車などで移動しているときは勉強するようにしていました。

山田：確かに。そうですね。そこは共感できます。ちょっと話ずれるんですけど、短期間で覚えるっていうので言うと、テストが始まる直前30分とかに見たことがそのままテストに出たりとかすると、それまで知識何もなかったはずのことも一番頭に入ってて、すぐ覚えられるじゃんって思うことがあります。

東山：逆に忘れるってことですか？短期間でやった成果がいきなり出てなんだよって思う？

山田：そうです。



東山：私逆もあるかもしれないです。さっき見たのに、覚えてないってことが。

山田：それもありますね。全部網羅しておきなさいってということなんですよね。少し話逸れましたが、私も自転車通学なので勉強とかはできないんですけど、実習の実技試験とかがある日の朝とかだと、検査の流れとか患者さんにかける声かけの手順とかをブツブツ唱えながら乗って行っています。家でしっかり時間割いて勉強できなかったことを口に出して覚えてるか復習するみたいなのはやってて、そこで言えなかったら定着してないんだっていうのを確認する時間に当てたりとかしています。インプットじゃなくてアウトプットの時間で自己活用していることが多いです。割と多種多様な有効活用方法が出てきたと思うんですけども。中山先生は学生の時いかがでしたか。

中山：学生の時ですか。学生の時は下宿をしていたので、大学の近くにいましたので、その時間に何かを使うっていうことはないので、今は私、出勤に片道が3時間から3時間半かかりますので、今の方が。今この自宅は三重県の伊賀市なんです。岐阜県の関市に行ってます。なので、電車に乗ってるのは2回乗り換えるんですけど、伊勢中川と名古屋で乗り換えるんですけど、都合だいたい2時間ぐらいあるので、そこはいろいろ、溜まったメールを整理したり、今はネットにつなげば何でもできるので、ノートパソコン一つ持っていたらいろんなことができるので、それこそ学生のレポートを見てたりとか、溜まったメールを返信したりとか、論文を読んだりとかっていう感じですね。だから結構、赴任したときは、教員が初めてだったのね、12年前は。それまでずっと現場でしたから。講義の資料が全くないんですよ。なので1年目はもう本当に自転車操業だったんですね。その日の講義の資料が、パワーポイントとか配布資料がようやく電車の中できたっていうのは何回もありましたね。だからそういう意味では遠いんですけど、うまく有効に使えたかなと思っています。

山田：今ちょっとレポートを読んでるっていう話が出たと思うんですけど、夜遅くまでレポート

やって、もう終わらない、これでいいや、おしまいにしちゃえみたいなことが過去に数回あったんですけど、先生がそういう時間を割いて読んでくれてると思って思うと、もっとしっかり書かなきゃって思いました。

中山：うちの学生でもね、レポートをポータルにアップロードする形でよくこの頃はしてるので、私のポータルが11時半できりなんです、夜中の12時じゃなくて。なので、先生できてたんですよ。できてたんです。あとは送るだけだと思ってたら寝ちゃったんです。結構あるんですよ。ダメじゃん。送ってから寝なさいよって言ってたんです。そういうのありませんか、皆さん。

山田：私パソコンで提出するレポートが一つもなく。全部紙なんです。皆さんはありますか？。

一瀬：早めに出すタイプなので、まだやらしてないです。

東山：オンラインで提出する課題で、事前に先生から指示が無かったので、提出するのを完全に忘れていたことがありました。メールで課題締切の連絡が届いて、慌てて出しました。

中山：レポートって皆さん実習のレポートですよ。基本的に。レポートっていうと実習っていう。

東山：そうですね。授業や実習のレポートですね。

中山：座学の講義でもレポートを課してるんですよ。だから、今回講義でしゃべったことを自由にでいいので、重要と思うところを書きなさいっていう感じで。つまり、強制的に復習をさせてるんですよ。提出したら1点加点しますよっていう。お得でしょ。15回で15点入るんですから。しかも毎日復習しながら、定期試験のための準備が出来る、真面目にやればね。始めたのはいいのですが、1週間でそのレポートを絶対見なくてはならないわけですよ。それが15回続くんやと思ったら、あーしまったなと思ったんですけどね。

山田：学生が得してるっていう。

中山：ただね、これやってて、一ついいことがあって、学生が勘違いしやすい場所と、勘違いしている表現がわかるんです。こういうふうに受け取ってるのかっていうのはまた修正していけるので、私の方は結局わかって話をしています。でも学生さ

んは初めて聞くので、どういうふうに取り受けるかによって、伝えたい内容がちゃんと伝わっていないことが結構あるんじゃないかと思いましたね。それがレポートを見たらわかるので、次の講義のときにこれはこういうことなんだよって修正ができるので、そういう面はいいかなと思います。大変ですけど。東山：私が学部生だった時、全然ついていけなかった授業がありました。そんな時に、そういう先生がいらっしゃったらありがたかったなと思います。

山田：院生の貴重なお話でしたね。

東山：先生方が学生の理解度をレポート課題で確認しながら授業を進めているのは素晴らしいと思いました。

## テーマ⑤

### 学校での休み時間何をしている

山田：続いての話題ですが、少し趣向が変わって、学校での休み時間何をしているかについてですね。真央さんからお願いします。

山口：休み時間は、特に何をしていなくて、友達と話すとか、休み時間は10分間なんですけど、今の所特に教室移動とかもなく、ずっと同じ教室を使うことが多くてのんびりしています。でも5分前ぐらいに先生が来て、出席申請をしろっていうことをすごい言われて、それもアプリ上でやるやつで。そこで出席申請をしないと欠席になるよってすごい脅されるので、もう残りの半分は出席申請に追われる時間になってます。

山田：どこの学校にもやっぱいるんですかね、出席今やりなさいっていう先生、私の学校にもいます。今出さないと、もうこれ以降は欠席にしますっていう先生がいますね。夏菜さん、お願いします。一瀬：はい、私も真央さんと一緒に、友達と話したり、自由にのんびり過ごしています。私の通っている学校は「誰々さん」「はい！」みたいな点呼形式の出席の取り方をしている講義もあります。40人くらいしかいないので。

山田：出席の取り方にもいろいろありますね。点呼だったり、アプリだったり、QRコード読み込

むみたいな学校もあるみたいで。

東山：私の学校では、自分でサインを書いて出席をとっていた授業がありました。40人のクラスなんですけど。

山田：一番確実ですよ、きっと。

東山：私は休み時間、一人で勉強していることが多かったですね。少し寂しかったのですが。最近は、実験の待ち時間に友人と話していることも多く、楽しくやっています。

山田：今、笑顔でしゃべってらっしゃって、それがすごくよかったです。私も学校の休み時間は、友達としゃべるか、あまりにも眠すぎたらちょっと仮眠とるとかで、その場を楽しむことだけに使ってます。皆さん、同じような感じでちょっと安心しました。バリバリ勉強してますとか言われたら意識高いつて思ってしまったと思うので。

## テーマ⑥

### 学校と私生活の両立どうしてる

山田：では、最後のトークテーマですね。学校と私生活の両立をどうしてますか？という話題について。真央さんからお願いします。

山口：両立は、出来ているか怪しいところはあるんですけど、ちょっと最近寝るのが遅くなっちゃって、朝もギリギリになってしまっています。やっぱり私は追い込まれないとやらないタイプなので、常に何かに追われています。

山田：確かにバイトも2つやって、学校もあってとかって結構時間タイトですよ。サークルとか部活とかも入ってたりします？

山口：入ってはいるんですけど、月1とか週1とか活動日数が少ないので、サークルに取られる時間は少ないかなっていう感じです。

山田：真央さんって一人暮らしでしたっけ？

山口：いや。実家です。もうそれだけで助けられています。

山田：そういうのはきっと大きいですよ。他のお二人のお話も聞こうと思います。夏菜さんはいかがですか？

一瀬：私は学校行った後にバイト行っちゃうの

が体力的にきついので、月曜日から金曜日は学校に行って、土日は両方バイトする生活をしています。今授業はないのですが、国試に受からないといけないので、学校に10時から5時半までは絶対に勉強するっていう風に自分ルールを決めています。

山田：ストイックな夏菜さんですね。

一瀬：それぐらいしないと。本当に落ちてしまうと思って。

山田：でもそのバイトと学校の日を分けるっていうのは、私も一緒に、平日学校、休日バイトっていうのは一緒だと思いました。やっぱりきついんですね。休みの日に家の外出たくないなとも思うんですけど、でも学校の後また疲れるのかって思ったら、休みたいが勝っちゃう。

一瀬：同じくです。学校だけでかなり消耗して帰ってくるので。

山田：七海さんはどうですか？

東山：私も一緒です。バイトは平日の夜ではなく土日に入れています。最近は時間までに実験が終わらないことも多いので、それでちょっと平日の夕方にバイトを入れるのは厳しくて。土日に入れるようにしています。あとは、最近ちょっと就職活動とかあるので、締め切りとか優先度を決めて、優先度が高いのからやっていくっていうのは、予想してるところですかね。

山田：ちなみにちょっと聞きたいんですけど、真央さんは平日、休日でバイト分けてますか？

山口：分けてます。飲食は土日で、塾はやっぱり平日じゃないとやってないので、っていう感じですかね。

山田：みんなそれぞれきっちり線引きされてるっていう感じですね。やっぱり。私もバイトは休日、学校は平日、あと私は今一人暮らしなので、なんかこう家事的な面で言うと、休日にお弁当を5日分、同じメニューです、全部同じものを作って、冷凍庫に入れるっていうのをやって、朝ギリギリまで寝たいので、もうそれレンジでチンだけして持っていけるみたいな状態にしています。七海さんは今一人暮らしでしたっけ？

東山：そうですね、一人暮らしでお弁当を作った

方がいいなと思いつつ、時間があるときとか気が向いたときだけお弁当で、基本は学食で食べてます。

山田：学食の値上がりが最近あって…

東山：それで私もたまにお弁当作ってます。

八木：皆さんの大学の学食ってどんなものが出て、どのくらいの価格帯なんですか。

東山：私の学校は大学生協が運営している食堂とそうでないところがあります。私がよく利用している大学生協が運営している食堂だと、主菜は5種類ぐらいの週替わりで、副菜も充実しています。価格帯は1食で大体650円前後ですかね。

山田：真央さんの学校はどうですか。

山口：私は、テイクアウトとカフェテリアで食べるいわゆる学食、っていう感じのものがあって、テイクアウトのやつは300円で食べれて、味噌汁もついて。結構嬉しいのでみんなそれ買って、また講義室に戻って食べるっていうことが多いです。

山田：テイクアウトあるの嬉しいですね。私も学校にお弁当っていうのと、カフェテリア内で食べるメニューがあって、今は、私学校が一期生なんですけど、どれくらい人数が入るのか予想してなかったのかわからないんですけど、カフェテリアに到底、全員が入れるような大きさではなくて、もう食べる場所がないので、お弁当を買って、中庭で食べてる人とかいますね。メニューは、みんなが好きそうな唐揚げとか、揚げ物が乗っていることが多いです。海苔弁当があったりします。でもすごく美味しいので、お弁当作れなかった日は、私も学校のお弁当を利用してます。夏菜さんはどうでしょうか？

一瀬：私の学校は、生協が入ってなくて、皆さんよりちょっと高いかもしれないです。500円前後です。最近はお米の値上げに伴って値上げされてしまって、もう手が届かないなと感じます。内容は日替わりだったり、単品で丼物みたいなものがあります。唐揚げ定食やカレーなどは毎日あります。

山田：価格帯言うの忘れちゃったんですけど、高いものはステーキみたいなものが出てる日があって、このステーキは700円、800円ぐらい多分してる

んじゃないかな。食べたことないので、正確には把握してないんですけど、高っ！って思った記憶があるので、それぐらいいい値段するんじゃないかなと思います。

中山：うちの大学も種類は少ないんですけど、3種類なんです。定食とどんぶり、カレー物とあと麺類っていう3種類なんですけど。定食が一番高くて490円ですかね。だから大学がたぶん半分ぐらい負担してます。基本的に学生さんにはワンコイン以下で提供するっていうのが考えにあるみたいで、学生数があまり多くないので、業者さんもある程度の値段帯でないと利益が上がらないので、そういう値段を提供してくるんですけど、その値段そのままにしてしまうと学生さんが生活苦しくなるので、毎日のことです。だから大学が半分負担して上限を500円まで、ワンコインまでにするっていうふうなことで運営してますね。食堂の従業員の人はすごくいい人で、学生がだいたい自分の子供ぐらいの年齢の人なので、大盛りなんか言おうもんならとんでもないことになるんですね。私はいつも定食で、少な目って少な目です。よって言って、やっと普通になるんですよ。何も言えへんかったらもう完全に大盛りなんです。学生が大盛りって言ったら、こんなにご飯を載せることができるんやっていうふうな盛り方になってますから。ご飯のサービスだけは、育ち盛りにはすごいサービスだと思います。

山田：ありがたいですね。お米の値上げがあるのに。

中山：値上げしてるのにそこ変わらないですね。もう食堂のおばさんたちも、楽しみながらご飯を盛ってますね。ニコニコしながら。

八木：さっきレポートの話が出てたじゃないですか、中山先生のところにいろんな生徒さんが、いろんなレポートを書いていらっしやると思うんですけど、それぞれキャラクターがあるわけですよね、生徒さんの中にはね。そうか、この子こういうこと書いてくるのか、面白いなって笑っちゃったこととかありますか。

中山：はい、漫画、キャラクターを作ってくるんですよ。講義の内容でキングとかを、キャラクター

を作ったレポートを書いてくる子がいるんですよ。その子すごくテクニックで優秀なんですけど、キャラクターを作らないと覚わらないんです。キャラクターを作りながら覚えてくるんですね。それは面白いですね。私の卒業式にちょっと来たんですけど。アニメを描くセットがありますよね。なんていうんですか？なんかボードみたいなものがありますよね。それを購入しましてね、私の卒研で、ひとつ物語を作ったっていう。バイ菌を擬人化して、キャラクターを使った物語を作って、教育教材にしてみようっていう。考えとしては、文字だけじゃなくて、キャラクターデザインを入れることによって、覚えやすくする、親しみやすくするっていうのができないかっていうのをやってみようっていうのを、卒研にしたんです。

八木：それはたった一人の方なんですか？

中山：あともう一人で、ペア。これがまた上手くいったんですよ。一人の子はもうすぐキャラクターを作るのが上手い子ですし、もう一人の子は物語を組み立てるのがすごい得意な子で、上手い子って思ったなと思って。

八木：ぜひうちでも連載してほしいくらいですね。働く細胞とか私も読んでますけど、擬人化するとわかりやすい。

中山：そうなんですよ。バイキン博士のひとりごとっていうテーマなんですけども、ちょっと作ってみたっていう。卒研発表も終わったんですけど、今度は岐阜県の中の技師会の学会があるので、そこにエントリーする予定にしているんですけど、どんな反響が出るかなと思って。あと、卒研が終わってからのの方が倫理的にもやりやすいので、学内で3年生、4年生、2年生に使ってもらった感想をアンケートを取って、まとめましょうかっていう予定をしています。

八木：面白いですね。

中山：そうするとね、結構キャラクターを書いてくる子が増えましたね。

八木：あー。それ楽しいな。

中山：それは結構見て楽しいですよ。こういうまとめ方をするんだとかね。

八木：現在、検査機器・試薬誌にも、ついこの間



までいろんな研究者の先生方が書いてくださっているんですけど、その中に、私はこれがイチオシだっている細胞をとにかくこよなく愛してる先生がいらっしゃるって、その細胞についても熱く語ってくださってたりするんですけど。皆さん、菌とか細胞とかいろんな研究をする上で、私はこれが一押しだっているのはございますか。

中山：またそういう先生っていませんか、皆さんの大学に。

山田：なんか微生物の先生はすごいこだわりが強い先生だと思うんですけど、何の菌が好きとかあんま聞いたことないですね。なんか全部好きそうっていうイメージがあります。

八木：培養する上ですごく愛着が湧いてしまう菌とかってありますか？

山田：私まだ学部3年生で研究らしいこともしたことがなくて、学内実習でちょっと扱うぐらいしかしたことがないのでまだないです。

一瀬：私はテーマで主に大腸菌を扱っているのですが、大腸菌のコロニーばかり見っていますが、同じ菌の中でも個性があって、ポソポソのコロニーの子もいれば、プクプクしてるコロニーの子もいれば、サラッとしたコロニーの子もいるというように、個性があって可愛いなって思っています。

東山：私一個思い出したのが、今タンパク質の実験をしているんですけど、ウェスタンブロッティングで目的のタンパク質があった場合、発色試薬をかけてしばらくすると、バンドが浮かび上がってくるんです。その瞬間が嬉しくて、楽しいなと思います。

一瀬：わかるかもしれないです。最後、PCRかけて電気泳動してエチジウムブロマイドというDNAを染める染色液で染めてUVで見えるんですけど、バンドがポポポーって浮かび上がった瞬間に、「やったぞ」という気持ちが湧いてきます。

東山：本当に、努力が報われた瞬間ですよ。

八木：中山先生は今までの研究の中で、一番推している実験とかってあるんですか。

中山：僕、大腸菌なんですよ。大喜利でも言っているんですけど、大腸菌が一番好きなんです。可愛いよって言って。大腸菌っていろんなやついる

んですよ。本当にタイプカルチャーのように、遺伝子組み換えに使うように全く無害で、大腸菌としての形を整えるために必要な遺伝子しか持っていない大腸菌もいれば、O-157のようにすごく凶悪な遺伝子を身にまとった大腸菌もありますし、女性に多い単純性膀胱炎を起こしてしまう大腸菌。でも膀胱炎まで起こすのと、腎盂腎炎までいくのと腎盂腎炎から敗血症まで行く大腸菌って、どう違うんだろうって思ったことがあって、そんなことをやってたことがあります。そしたら、大腸菌ってだんだん可愛らしくなってきて、調べてみると全ゲノムを比較してみると、髄膜炎を起こした大腸菌しか持っていない遺伝子っていうのが出てきて、ちょっとそんなんを言いたい。だから一つ菌をテーマにすると、なんか可愛らしくなってくるんですよ。

八木：弊誌で書いてくださる先生で、寄生虫が大好きな先生がいらっしゃるんですよ。だから一度熱く熱く語られたのが、寄生虫にも無害な寄生虫もいるのに全部の寄生虫を悪者にしないでください、っておっしゃっていたんです。本当にやっぱり研究者の方々って、研究していくうちにね、いろんなものに愛着とかいいところを見出すんだなと思って、とても楽しい気持ちになってるんですけれどもね。

中山：寄生虫といえれば目黒に行ってほしいですね。サナダ虫のTシャツを私持ってますので。

八木：キーホルダーとかあるんですよ。

中山：ちゃんとサナダ虫の厚さがTシャツにあるんですよ。絵を描いてあるだけじゃなくて。

八木：皆さんは上京されることあるんですか。

東山：就職活動で行くことがあるくらいです。

八木：一匹サナダ虫で、高校生の中に住んでいたサナダ虫というのが、すごく長いのが展示されていた記憶があったんですけど、こんな長いのが体内にいるのかと思って。びっくりしました。

中山：痩せ薬っていうような形でネットで言われたことがあるんですよ。

八木：このサナダ虫なんですか。ハリウッドの女優さんとかが、ダイエット代わりにわざと寄生虫

を体内に入れるって聞いたことがあるんですけど。効き目あるんでしょうか。

中山：効き目というか、だったら別の方法があるんじゃないと思いますけどね。もうちょっと綺麗に痩せますよ。

山田：さて、ここまで一通り、検査学生と1日のこだわりだったり、割と広くお話を聞けたんじゃないかなと思いますが、何か聞いてみたいことがありますか？

中山：例えばね、一般では使わない言葉を使ってしまうことって何ですか。学生同士の会話で。僕ら検査技師だと、女性の上司と大腸菌の血清型を見るときに、O抗原とH抗原ってありますよね。つまり菌体抗原と鞭毛抗原なんですけれども、だいたい仕事になると略して話をするじゃないですか。ある日、職場の忘年会に行くのに、電車の中で仕事の話をしてたのね。そしたら、「あ、中山くんエッチしてくれた？」って言うんですよ。でもこれ端で聞いている人がどういう話に聞こえているのかなっていう。「はい、しました！」とか言ってるんですよ。どういうこと？っていう。これはちょっと極端な例ですけど、学生と友達同士で話しているときに、一般の人が聞いたら、よくよく考えてみると、「えらいこと言ったな」とか、「あれ？」っていうふうなことってなかったですか？例えば、ジュースとか何かを攪拌するとか。言わない？

山田：転倒混和って言いますよね。

中山：言いますよね、それね。

山田：はい。それは割とあるあるかもしれないです。

八木：みなさんでお料理教室とかYouTubeでやったら面白いかもしれないですね。まずここでお砂糖を入れて転倒混和しますとか言って。

中山：よく攪拌してくださいって言って。考えたら出てこないんだけど、これこないだ言ってたやつやっていうのがね、これからの生活の中でポロッと出てきたりすると思うんですけど。

一瀬：何かを移動させるときに移植するって言っている気がします。

八木：そのの棚をこっちに移植させてとか言っちゃうわけですか？

一瀬：そんなイメージだったと思います。

八木：仲間うちじゃなくて、全然違う道に進んだ昔の同級生なんかと喋るときに、「え、何？」って言われることはありますか？あまり違うジャンルの子とはお付き合いとかしない状況なのかな？

山田：それもあります。

八木：例えば、アイドルとか見てて、アイドルの子を見ると、かっこいいよねとか、この子髪型がいいよねっていう表現がちょっと違ってしまっていて。特にそういうのはないのか。

中山：なんかありそうで、ちょっと出てこないですね。終わってから多分思い出すと思うんですよ。ああ、これだったな、そういえば。そういうときはメモしていただいて、次のときに。今日はたまたま4人ともみんな学校が違うので、それぞれの学校で、これはちょっと他の大学ではないんじゃない？うちこんな特色あるよ、っていうのが。もしなんか面白いことでも、すごいことでも何でもいいんですけど。もしあったら。

東山：私の大学はちょっと特殊かもしれないんですけど、大阪大学の医学科と保健学科は結構密に連携してるので、医学科の有名な先生の講義を受けられるのは一つ特色かと思います。

中山：阪大だったら、阪大微研がありますもんね。

東山：ありますね。私、そこで実験補助のアルバイトをしたことがあって。

中山：ああ、そうなんですね。僕もあそこに実験に行ってたことがあって。腸炎リブリオが生まれたところですからね、阪大微研は。何か大学の特色ってありますか？

一瀬：埼玉県立なので、何かのイベントがあるとコバトンの着ぐるみが来て、一緒に写真を撮ってくれます。多職種連携に力を入れていて、4年生になると埼玉県内のいくつかの大学と協力して、うちにある保健医療福祉学部看護学科や検査専攻などの学生と埼玉県内の他の大学の医学部の人と建築学部とか薬学部の人とかとも連携して一つの施設にお邪魔して患者さんのケアプランやよりよくケアしていくにはどのようにすればよいかと

いうことを考える実習が1週間くらいあります。他の大学の人と連携するという機会はあまりないので、良い経験になったと感じています。

中山：他の大学も交えた多職種連携みたいな感じの実習ってということになるんですかね。

一瀬：そうですね。そんな感じです。

中山：すごくいいですね、それね。なかなか、そうですね、後でも検査と放射と看護と薬学があるので、そういう形ではできるけれども、でもここにね、他の大学が入ったらリハビリとか、他の職種の人たちともできるわけですからね。ああいうことを聞いて、すごくいいですね。ありがとうございます。

山田：私の大学は、まだ3年目で何が特色かもわからないですね。一期生だからこその学校側の失敗なのかもしれないんですけど、学内実習を組み込む学年のバランスを間違えて、3年の前期にもすごい数の学内実習が集まっちゃって大変みたいな。特色とはいえない気がするんですけど、でも私の代しか経験できないかなみたいなカリキュラムだったので。

中山：そうすると前期はレポートの嵐になるわけ？

山田：そうですね週9とかでレポート書いてました。1日に2個は実習があったので。

中山：臨地実習は今ですか？

山田：はい、今です。

中山：臨地実習は付属病院で大体みんな行けるわけなんですか？他の病院にも行くんですか？

山田：他の病院も結構あるんですけど、全部で30施設ぐらい行っていて、3分の1かそれより少ないぐらいの人数が順天堂の6病院に行っていて、それ以外は2人とか1人ずつで割と都内、関東圏の病院に行ってるって感じです。

中山：それもそうしたら、行ったら臨地実習は他の施設に変わるってことはなく。

山田：そうですね。1か所です。

中山：2ヶ月くらいですか？

山田：はい、2ヶ月です。

中山：そうですね、だいたいね。すごいな。前期に、週9でレポートですか？

山田：はい、そうなんです。しかも手書き指定の科目とかも結構あって、それが結構大変なんですよね。

中山：うちにもね、手書き指定で重さを測る先生いますけどね。書いた枚数で評価するっていう先生いますよ。

山田：中身じゃないんですね。

中山：評価する方は楽でいいですよ。

山田：確かにそうですね。費やせる時間が多かった人の勝ちみたいな感じですね。

八木：その手書きのレポートって、どのくらいの、何ページ以上とかってあるんですか？

山田：いや、枚数の指定はされたことないんですけど、なんか書いた方が評価してもらえそうっていうので、どのレポートも4枚以上ぐらい書いてる気がします。そんなに書かなくてもよかったんじゃないって、後から思うこともあるんですけど、それが点数につながってるってことを信じてやりました。

八木：先生はその量のかける生徒さんの人数を毎日読まなきゃいけないわけですよね。大変だ。

山田：本当に大変だと思います。先生も、先生が出してるのに、これ読まなきゃいけないのに読み切れてない、ごめんねって先生結構かなりいたので、それならもうちょっと減らしてくれてもいいのって思っていました、学生の立場としては。

中山：なるほど、そう思います。

山田：真央さんは何かありますか？

山口：私も結構多職種連携を大学が推してるっていうか、藤田はアセンブリっていう授業があって、学科も、医学、看護、作業、理学、検査、放射、工学って、すごいいっぱい医療職の中ではあるので、1年生のうちから、全学部の1年生でグループが作られてコミュニケーションを取るっていう授業があります。あとは、3年生とか4年生になると、藤田には薬学部がないので、近くの大学の薬学部の人と一緒にやったりとかもするみたいです。

中山：藤田はすごい人数多いですよ。130とかじゃなかった？

山口：多いです。検査が141人います。そのなか

ら、学科は医療検査学科という名前なんですけど、来年からは臨床検査技師になるのか、工学技師になるのか分かります。工学に行く人は少ないですね。141人いて、20人、30人いないぐらいですね。

山田：意外にお互いの大学の話すことってことなかったんで、結構新鮮で面白いですね。

中山：100を超える定員の臨床検査学科って他ないと思いますよ。

山田：順天も100ちょっとです。定員は110人ぐらい取ってます。

中山：そうなんだ、すごいな。それでその週9のレポート？見れんよな、先生。

山田：先生が一番大変だと思います、本当に。

八木：一時280本ってことすもんね、レポートがね。

山田：そうですね。レポート用紙が足りなくて困ってました。

八木：レポート用紙は学部内の売店で売ってるんですか？

山田：学校が新しいので売店とか生協とか何もなくて、コンビニもなくて、全部自分たちで買って使うって感じてしたね。学校で売られているものは何もないです。

八木：何かお勉強をする上で、例えばレポートをするなり、何なりをするなりで、一番手に入れるのが困る必要アイテムってありますか？例えば、なかなか鉛筆を使うことっていうのが昔に比べて少ないと思うんですけど、消しゴムがとにかく足りないとか？

山田：コピー用紙でしょうか。パソコンで書いてもそれを紙で提出しなきゃいけない先生もいるので、そんなにレポートを書いているとコピー用紙は1ヶ月に1回ぐらい買いに行っている気がします。

八木：そうかもしれないですね。中山先生の時代はあまりプリントアウトというよりは全部手書きでやったものなんですか？

中山：いやいや、もうプリンターなんてなかったですよ。ですから、もう全部手書きです。

八木：コピー用紙っていうとコンビニとかだと売ってたりもするのかな？

山田：コピー用紙、コンビニでは買ったことないんですけど、最初は安く手に入れたっていうので、100円ショップとかに行って探してました。でも、電気屋さんとかに行くと1000枚コピー用紙があるので、それをまとめて買ったとかしてます。

中山：真っ白の紙ってなかなか手に入らないですよ、意外と。今ちょうど国試対策が始まってるんですけど、国試対策の講義のとき、僕はA3の紙を厚さ1cmぐらい持っていくんです。で、講義のやつをこの紙に書きなさいって言って。微生物なんかは特に分類学なので、整理できないと覚えないんですよ。覚えてないってみんな言うんですけど、覚えてないはずがなくて、頭の中に入ってるんだけれど引き出せないんですよ、それはね。引き出せないのは何で引き出せないかって言ったら、整理できてないからどこにあるかわからない。だから真っ白の紙にとりあえず、講義で話していくことを、自分で整理していきなさいっていうので、白い紙がないって言うから、じゃあ持ってくるわって言って。A3の紙だいたい毎回こういうふうに1センチくらいの厚さを持ってきて、家に持って行きなさいみたいにしてるんですけど、白い紙ってなかなかね、手に入りそうで手に入らない。積極的に買いに行くっていうわけでもないしですね。必要アイテムなのに。

八木：一番基本的な必要アイテムですもんね。

中山：そうなんです。皆さんね、書いて覚えるっておっしゃってたので、やっぱり書くものはあるけど、書かれるものがなかったら書けないので、と思いました。

山田：今回はこの辺で締めようかなと思います。皆さんありがとうございました。今回は学校の話から私生活の話まで、割と幅広くこだわりをお聞きできたんじゃないかなと思います。いろいろアイデアを聞けたと思いますので、この機会に取り込んで、よりレベルアップした学生生活を送れるように頑張りましょう。最後に皆さん一言ずつお願いします。真央さんからお願いします。

山口：今回の座談会は、年上の方ばかりで、すごいいろんなことを勉強になることを教えていた



だいたいで、これからの生活に役立てていきたいなと思います。ありがとうございました。

一瀬：座談会に参加するのが初めてで、どのような雰囲気かも分からなくて、緊張してたのですが、すごく和やかでお話ししやすい雰囲気で、楽しく参加することができました。話すの得意ではなかったのですが、結構スラスラ言葉が出てきて良かったです。ありがとうございました。

東山：他の大学の検査の学生さんのお話を聞くことができ、さらに教員の方のお話も聞くことができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

山田：中山先生のお話聞けたのはすごく貴重で、今回参加できて良かったなって思いました。ちょっとこれから SOLS の交流会の企画として学校のことについて話すっていうのを 1 個テーマにしても面白いのかなって思ったりしました。またそこで話したことを座談会でお話できたら、もっ

と内容の濃い座談会になるかなと思ったので、そういうところも考えながら、また次回以降の座談会も盛り上げていけたらなと思います。ということで今日はここで以上にしたいと思います。

中山：どうもありがとうございます。今日聞かせていただいて皆さんやっぱり、しっかりされてるっていうか、学問をちゃんと中心に添えて、中心においてでもそれだけじゃなくて私生活の部分ですとか趣味の部分ですとかいろんな多彩なものが。やはりまた、この間もありましたように、学会の学生フォーラムってこの頃絶対ありますので、そういったところに参加していただいて、一緒に SOLS 自体を盛り上げていってほしいなと思います。うちの今 1 年生の子もこの間すごく興味を持っているような子がいてたので、もし入っていったらよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。